

定福寺・豊永郷民俗資料館・定福寺講堂 研修活動プログラム

—『学び・知る・考える・動く』—

1. 目的と背景

定福寺はこれまで、様々な取り組みを行ってまいりました。かつて定福寺には寺子屋のような教院、剣道場、経典など収蔵していた蔵がありました。盆踊りや祭りが境内で執り行われ、豊永郷の人々の集まる場所にもなっていました。近年では 60 年前よりユースホステルを併設し、若者たちがお寺の宿泊施設を利用することで、伝統文化に接する機会を設け、僧侶と話す機会や瞑想の機会を提供してきました。また、宿泊者自らが提案し、豊永郷を活用した様々なプログラムを開発してきました。境内には宝物殿や日本で 6 番目に開園された土佐豊永万葉植物園、豊永郷民俗資料館があります。

定福寺は豊永郷地域の住民や定福寺を訪れる人々の縁のお陰で存続してきました。寺院は「祈る場であり、学ぶ場であり、集う場である」ということが、定福寺の先師たちの記録からうかがうことができます。

現代の視点で新たな取り組みや社会とのつながりについて、お寺で何が提供できるのかを考えた結果、『学び・知る・考える・動く』をキーワードとし、豊永郷を活用する研修プログラムが誕生いたしました。

定福寺、豊永郷民俗資料館、そして定福寺〇〇講堂を活用し、豊永郷文化を切り口とした研修プログラムとサッカーの育成方法を活用したプログラムです。

2. プログラムについて

現代社会では、「人材育成」や「社員研修」について数年前から変容がみられていました。『日経新聞』やその他の経済紙に企業の在り方や、人を育てることの重要性、また社会課題に向き合うことについての記事が掲載されることがありました。

「人類の豊かさとは何か。誰もが納得する指標を作れるかどうかは分からない。仮に生み出せたとしても、GDP に完全に置き換わることはないだろう。一方で GDP だけを信じるべきでもない。豊かさの捉え方が変わる中、信頼できる指標の再構築が求められている」
———どうしたらいいでしょう。

「もっと心の奥に目を向けるのはどうか。多くの人が精神的な落ち込みを抱えている。仕事は人々の生活を支え、アイデンティティを定義する重要な要素となる。重要なのは仕事をする中で『意義あることをしている』と実感できることだ。

『日経新聞』2022 年 1 月 14 日 成長の未来図 識者に聞く(4)「意義ある仕事の供給を」
マサチューセッツ工科大教授 アビジット・バナジー氏

BRTでは、1970年代からコーポレートガバナンスに関する声明を公表してきており、1997年以降は企業の目的を株主利益の実現ととらえていた。しかし、その後、米国の多くの経営者は地域への貢献や環境問題への対処など、広く社会課題の解決も企業の目的ととらえるようになってきており、今回の声明はそのような変化を反映させたものである。

『週刊 経団連タイムス 2019 年 12 月 5 日 No.3434』

定福寺が提供する研修のテーマは、『学び・知る・考える・動く』ということです。

定福寺の所属する仏教は、「苦」について向き合う中で、「自と他」、「つながり」や「物事の捉え方」を追求する中で、心について様々な「理論と実践」が生まれました。仏教を考える際、一般的な宗教という枠組みと捉えるよりも、「自己と世界の関係」を見つめ「思考－実践の体系」を構築してきた集団という捉えの方が考えやすいという側面があります。

NPO 法人豊永郷民俗資料保存会が運営する豊永郷民俗資料館は、昭和 30 年代の山間地域に住む豊永郷の人々の生活や自然に対する考え方を感ずることができる場所となっています。

「研修」は、定福寺周辺の施設から情報を得て、課題を見つけ、解決方法を考えて頂くことや、豊永郷で「学び・知る・考える・動く」ことでリラックスし、その中で何か感じて頂けることを願ってプログラムが作られています。

プログラムは 5 つあり、どのようにも組み合わせができます。1 つ目は豊永郷民俗資料館のプログラム、2 つ目は定福寺のプログラム、3 つ目はサッカーコーチングプログラム、4 つ目は定福寺ユースホステルで行われていた修行プログラムです。5 つ目は土佐豊永万葉植物園とその周辺地域を散策するプログラムです。

豊永郷民俗資料館、定福寺宝物殿、土佐豊永万葉植物園は、高知県の博物館・美術館・動植物園・資料館などの団体であるミュージアムネットワークの会員です。ミュージアムネットワークとの連携も行い、様々な分野の学芸員をコーディネートする役割も果たします。



定福寺境内と豊永郷民俗資料館

2. 1. 豊永郷民俗資料館でのプログラムコンセプト

日々の生活の中で、あらゆることで考えさせられ、判断にせまられる場面に誰しも出会うことがあります。豊永郷民俗資料館での研修は、展示やコンセプトを基にして、現代の生活と昔の山間地域の生活を比較することで、何かを感じて頂き、また新たな視点を提供できればと考えています。

豊永郷民俗資料館は、豊永郷の人々が使用していた山村生活用具であり、昭和 30 年代から 40 年代に収集された民具です。約 12,000 点が収蔵されており、内 2596 点が重要有形民俗文化財の指定を受けています。民俗学者の柳田国男は「郷土研究と郷土教育」の中で「我々は郷土を研究の対象としていたのではなかった。(中略) 郷土を研究しようとしたのでは無く、郷土で或るものを研究しようとして居たのであつ

た」、「個々の郷土の生活を知ることは手段であった」と語っています。柳田の「郷土研究」を「民具学」に置き換えて、考えてもいいと『民具学の提唱』で述べているのが、民俗学者の宮本常一です。「民具研究の根本問題は民具の形態学的な研究にとどまらず、民具の機能を通じて生産、生活に関する技術、ひいてはその生態学的な研究に深いつながりを持つものである」と述べています。また宮本常一の師でもある渋沢敬三について、「渋沢敬三が問題にしたかったのは、民具そのものではなく、人々の生活そのものであり、しかも目に見えるものを通して古い生活を見ようとしたのではあるが、同時に生活が時間的経過の中で何が変わらず、何が変化していったか、また何故変化し、何故変化しなかったかということだった」と宮本常一は述べています。

民具に関しても単なる古い道具、昔使われていた道具というだけではなく、多様な視点からとらえることが可能です。この多様な視点を持つということは、生活を楽しむ要素の一つだと思われます。

展示されている民具が使用されていた時代と現在との比較を、人と自然の関係、道具と技術の関係を切り口として話題を提供いたします。豊永郷の人々の自然とのかかわり方、考え方からみえる人や地域のつながり、残された風習から考えられることを知って頂くことで、現在を生きる私たちの日常とは違った視点で物事を思考するための要素の一つを提供しようとしています。



豊永郷民俗資料館内部

2. 2. 定福寺でのプログラムコンセプト

定福寺のある豊永郷は、特殊な地域性、地理的環境の影響で昔からの古い風習が残る地域です。豊永郷の神仏に触れて頂くことで非日常を感じて頂くことができると思います。

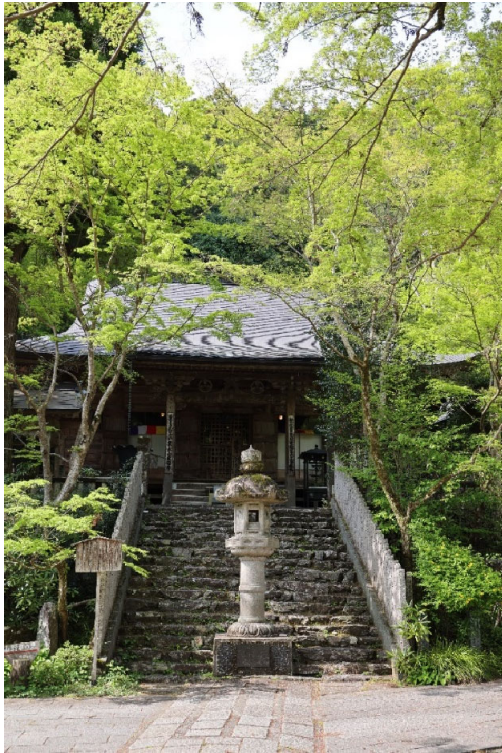
仏教は、お釈迦さまの誕生された環境で「苦」と向き合う中で、自分を見つめ、他との関係性を考えてきたお釈迦さまの教えです。

仏教についてある先生は、「仏教は、一般的な宗教という枠組みでとらえるよりも、「自己と世界の関係」を根本的に組み替えるための「思考－実践の体系」ととらえた方が本質をとらえやすい」と述べられています。

宗教という枠組みではなく、自分と社会や自然との関係を見つめ直すための方法の1つと捉えることができます。

仏教の出発点は「生老病死」という「苦」と向き合うことでした。あらゆる「苦」を追求し、取り除くための考え方や方法を追求してきました。仏教で重要なのは「縁起」と、「苦の原因と結果の追求」、「苦」

に対処する方法とされています。定福寺では、写経や写仏、瞑想や仏教講座などで「自分と向き合う」作業をきっかけとして、『学び・知る・考える・動く』ということに関して仏教的な視点からプログラムを提供いたします。



定福寺本堂と大賀蓮

2. 3. サッカーコーチングより考える組織に関するプログラム

スポーツは武道とは異なり、遊びから生まれたとされています。現代のサッカーでは「ティーチング」と「コーチング」の違いが言われています。その中で重要なのは「選手ファースト」と選手の「思考と気づき」を促す言動が重要な要素だと考えられています。

サッカーは世界中で行われているスポーツです。これまでの方針では勝てないと感じた日本サッカー協会（以下 JFA）は、選手の育成と同時に指導者の育成の重要性を唱えています。ライセンス制が導入されており、広く講義がなされています。

世界中のサッカーではコーチングの重要性やコーチングの仕方、暴言や暴力の撤廃について指導者に指導がなされています。すべてのコーチングは選手ファーストであり、選手育成とチーム強化が目的となっています。

サッカーは、自由なスポーツです。ルールの範囲内でどんなプレーを選択しプレーしてもいいです。指導者の重要な役割として忘れてはいけないことは、子供たちに「サッカーの楽しさ」を伝えることだとされています。常に試合に勝つことを意識させ、全力を尽くして最後までプレーをするように促すことは、指導者にとって大切な役割ですが、一方で指導者は、勝つことだけを望むのではなく、子供たちの夢を叶えるために、育成を中心に考えなければならないとされています。

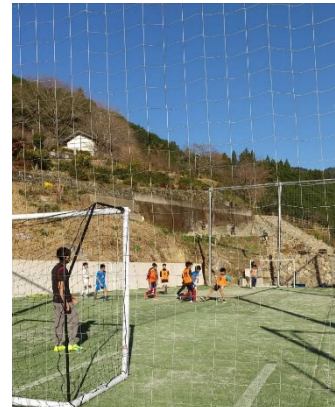
かつては選手を育成することとチームを強化することは、真逆のコーチングのように考えられる面があ

りましたが、元日本代表監督のイビチャ・オシム氏は、

「育てることと勝つことは矛盾しているようで、矛盾しない」

と述べています。子供（選手）たちは、放っておけば上手くなるということはありません。必要なことをしっかり身につけさせるための有効な働きかけと、コーチングが必要だと JFA では考えています。サッカーコーチングの考え方を学ぶ事は、現代社会において企業の人材育成や強化に関しても有益だと思われれます。

サッカーは「認知・分析・判断・行動」のスポーツです。定福寺の『学び・知る・考える・動く』という目的に即した研修プログラムを提供いたします。



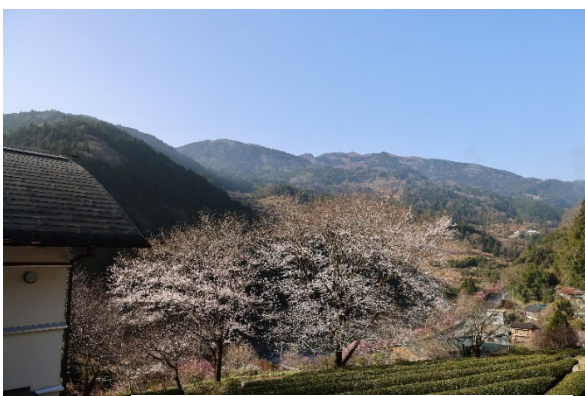
定福寺第三駐車場を利用したのコーチング練習

2. 4. 五大修行（梶が森登山・トレッキング）

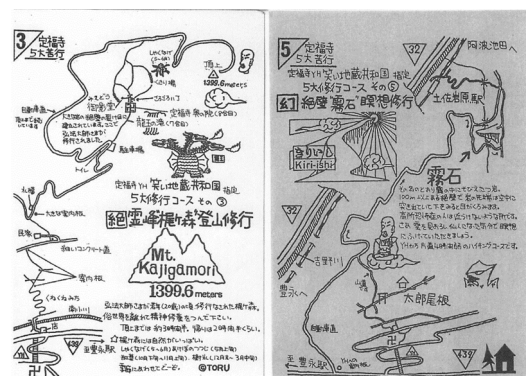
定福寺境内には、昭和 42 年から約 35 年間ユースホステルがありました。

ユースホステルでは多くの大学生や宿泊客が訪れ、様々なイベントがおこなわれていました。その代表的なものに『定福寺 YH 五大修行』というものがあります。名前の通り 5 つの場所を巡るコースです。3 か所以上走破した人は定福寺のユースホステル名である「笑い地蔵共和国」より国民栄誉賞が贈られ、5 つすべて走破した人には人間国宝が贈られていました。宿泊者が笑い地蔵共和国のパスポートを持っている方は、入国ビザ出国ビザが押印されるシステムで宿泊割引などの特典がありました。この五大修行のコースは、お互いに協力しながら完走するために、コミュニケーションができる環境でもありました。

研修プログラムでは、「梶が森登山コース」があります。ガイドは地元のアウトドアの方々がサポートしていただきますので、こちらは保険など別途費用が必要となります。登山をすることで、チームワークや人間関係を築く場やきっかけを提供しようとしています。



定福寺から見た梶が森



2. 5. 土佐豊永万葉植物園と周辺地散策

土佐豊永万葉植物園は、日本で6番目に開園された万葉植物園です。園内には123本の万葉歌碑があり、その周辺には万葉集に歌われている植物が生息しています。希少植物や山間地期に咲く植物など、平地とは違った植生を楽しむことができます。

一方で、環境の変化によりこれまでにない現象も起こっています。

土佐豊永万葉植物園や周辺地域を散策することで、環境に対する変化や課題を見つけ、どのような解決方法があるのかなど研修に取り入れることができます。

3. プログラムの内容（一例）

それぞれ選択して受講可能です。

3. 1. 豊永郷民俗資料館

- (1) 文化について（30分）
- (2) 道具と技術について（40分）
- (3) 豊永郷の歴史と産業（60分）
- (4) 貨幣と価値観について（60分）
- (5) 民具使用体験
- (6) 豆腐作り

3. 2. 定福寺

- (1) 仏教講座（90分）
- (2) 般若心経講座と写経（60～90分）
- (3) 仏像講座と写仏（60分）
- (4) 瞑想（40分）
- (5) 作務（境内掃除）（60分）
- (6) 住職好き勝手講演会（60分）

3. 3. サッカーコーチング

- (1) サッカーについて（30分）
- (2) 育成と強化について（30分）
- (3) コーチングと選手ファースト、コーチの意識について（30分）
- (4) フットサル実技とコーチング（60分～90分）

*これは（1）～（3）を受講した者のみ

3. 4. 五大修行

- (1) 梶が森登山

定福寺～山頂（5時間）、龍王の滝～山頂（3時間） 龍王の滝まで車で30分

- (2) 霧石溪谷トレッキング

通常コース： 定福寺～霧石溪谷（赤根）片道3時間

ロングコース：定福寺～霧石溪谷～岩原お堂（ガイド）片道4時間

3. 5. 土佐豊永万葉植物園と周辺散策

- (1) 土佐豊永万葉植物園ガイド（1時間）
- (2) 周辺地域散策（2時間）

3. 6. 日本文化体験

茶道（野点など）を体験することができます。

4. 異業種交流

これらのプログラムを異業種間で共に行えるようにすることも可能です。異業種間の交流は、様々な刺激があります。楽しく交流ができるプログラムになると考えます。

5. ミュージアムネットワーク

定福寺宝物館・豊永郷民俗資料館は、高知県の文化保存交流を行う博物館・美術館・植物園・動物園等が加盟するミュージアムネットワークとの連携も可能であり、様々な講師をお招きすることもできます。

6. 定福寺、豊永郷民俗資料館が参加する研修プログラムの事例 資料1

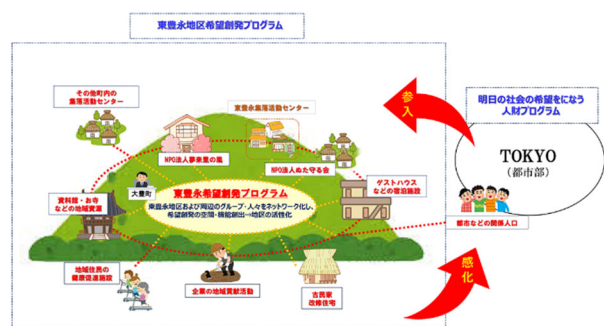
高知大学地域協働学部、高知大学希望創発センター

OTOYO 事業

OTOYO 事業は、高知県大豊町東豊永地区をフィールドとした、「東豊永希望創発プログラム」と「明日の社会の希望をになう人財プログラム」の2つからなります。

東豊永は全国的にも過疎・高齢化が顕著な地区ですが、そこに残る文化や風景は、私たちにとって今の日本社会を見つめなおし、これからについて思案するヒントになると考えています。

五感を通じて学び、地区や社会の活性に向けて取り組んでゆく。それがOTOYO事業です。



東豊永希望創発プログラム

東豊永地区にあるヒト・モノ・コトを活用し、地区のコミュニティパワーを底上げするプログラムです。

東豊永は、四国山地の真ただ中に位置する、山村からなる地域です。「限界集落」と呼ばれるほど人口減少・少子高齢化が進む地域ですが、そこには厳しい自然環境の下でみられる人と自然、人と人、あるいは人と祖先とのつながりといった、現代の社会が忘れてしまった大切な関係が色濃く残っています。

プログラムでは、この地区で活動する組織（NPO・大学・企業など）や都市部の組織・人々をネットワークで結び、協働を進めることで地区を元気にしようと取り組んでいます。

明日の社会の希望をになう人財プログラム

明日の社会の希望をになう人財プログラムとは、東豊永地区のヒト・モノ・コトを教材とした合宿と事前事後のオンライン研修からなる人財育成プログラムです。

プログラムは、今日の産業社会を支える資本主義のあり方を課題としています。資本主義の精神の原点には、利潤の獲得を目指す「産業の論理」と、隣人愛の実践を目指す「人間の論理」の二つの中心がありました。ところがそれらは次第に反目しあい、人間の論理は迫いやられ、変質した産業の論理が優先されるようになりました。

私たちは、「人のつながり」や「人の生きがい」といった人間の論理を取り戻すことが、社会をより良くしていくことに繋がると考えています。

東豊永地区は、産業社会では経済発展から取り残されてしまった「限界集落」ですが、ポスト産業社会においては、産業社会以前の“自然のあり方、人間の生き方”を学べる先進集落ともいえるでしょう。

本プログラムでは、豊かな自然のダイナミズムの中で「生きる（働く）意味」について考察し、「人間」中心のポスト産業社会の創造に向けた新たな気づきを得ることを目的としています。

6. 問い合わせ・申し込み方法

（１） お問い合わせ

お問い合わせは、定福寺ホームページのメールか電話にてお願いいたします。

一度、体験されたい方はモニター研修も行います。お問い合わせください。

定福寺ホームページ <http://jofukuji-kochi.jp/>

定福寺メール tosa.jofukuji@gmail.com

定福寺電話 0887-74-0301

*項目は限られますが、定福寺以外の場所にもお伺いいたします。

（２） お申込み

最初にメールにて、人数、所要時間、場所、目的をお伝えください。その後、打合せをさせていただきます。

連絡先

〒7890167

高知県長岡郡大豊町栗生 1 5 8

真言宗智山派 栗生山定福寺

住職 釣井龍秀

電話 0887-74-0301

FAX 0887-74-0302

メール tosa.jofukuji@gmail.com